

宗・無宗教に転落している、わが末法の衆生に大慈大悲の法雨をさんさんと降りそそ

がれんことを切に仰望する者である。

(早大出版部・定価四五〇円)

大野実之助著『李太白研究』

岡 一 男

中国の詩は、唐に尽く。唐の詩は、李白を推して第一となす。李白は、実に中国第一の詩人也。——とは、私が少時愛読した大町桂月翁の「李白」論の起筆だが、李白が同時の後輩杜甫及び中唐の白楽天と伍して毫も遜色のない中国第一流の詩人であることは、天下の公論である。そのうち杜甫

については土岐善麿博士の近業『新訳杜甫詩選』三巻があり、その傑品を年代的に排列して美しくわが古歌の韻律に翻しつつ、苦惨の生涯と深刻な精神の懊悩を描いておられる。また堤留吉教授の一昨春の力作『白楽天』は、内外古今の学説を綜合してその生活と思想と文学を論述して、彼の世界文学史上重要な地位にあることを明らかにされたが、このたび大野実之助教授が恐らく李白研究史上空前の大著と思惟される『李太白研究』を公刊されて、その時代

と人物と作品を綿密に考証・評論し、千古を照らして彼の詩人的本質を闡明し、光燭万丈たらしめ、ここに前記の二高著と相俟つて東洋の三詩聖一時にわが早稲田学園に聚まるの壯觀をみせられたことは、はなはだ欣快にたえない。

李白・杜甫・白楽天の優劣は俄かにきめられないが、李白は初唐の詩壇に低迷していた六朝の習氣を一掃し、千載已絶の大雅を作し、後二者に先駆して唐詩を古今に卓絶せしめたるもの、幼にして天才、長じて天上謫仙人の称があつて、その神識の超遇と、天馬空を行くが如き奔放なる詩魂とは、到底人間のものではない。徳富蘇峯翁は『杜甫とミルトン』の大著を上梓して両者ともに世界的詩人として甲乙なきを論じ、白楽天は王朝以来わが国文学に深き影響をあたえ、また中国においては元輕白俗

のそしりを逆転して、近時社会詩人・人民的詩人として声価大いに揚つてゐるが、これをわが和歌史上でいえば、李白は柿本人麻呂、後二者は山上憶良・大伴家持に比すべく、天籟と地籟と人籟のちがいあるは、如何ともしがたい。桂月翁が、杜甫の登高して大水にあい、飢えて、漸く食をえて、食いすぎ、頓死したのと、李白の大醉して采石江に浮かんで、水中の月を捉えて死したのと、この二人の死に方を考えても、「杜は、どうしても、尋常の人也。李は、仙物也。」と評されたのを当れりとする。いわんや、白楽天は晩年香山寺に退休し、優游自適し、家族に温く看護されて天寿をおえたのだから、杜甫よりも尋常な幸福人といわねばならない。近人の貴重する兼濟・独善の思想の相剋の如きは李太白にむしろ凄絶なるもののあることは、大野教授の新たに究明したところである。

しかも、彼の生涯の変化に富む、幼にして神童、百家を觀、群經に通じ、長じて劍を好み、仕を求めて四方に遊歴し、顯官に謁して英才をあらわし、俠客と交わり、隱者と相棲み、壯にして長安に上り、玄宗に

召されて翰林学士となり、禁闕に出入し、時勢を慨しては賀知章らと酒中八仙の遊をなし、貴妃の譴にあつて、再び江湖に放浪し、晩に永王の叛に座して禁獄流謫して終わるなど、まことに波瀾万丈、一篇の戯曲を観る感がある。しかも、その生地は西域といい、山東といい漢胡の血を混ぜるとい、老子の裔といい、李広の後なりとい、当塗に六十二歳で病歿したとい、六十三歳で采石江で醉死したとい、その生死の時処についてさえ異説紛糾している。

大野教授の名著は、この伝説と異説と詛伝雲霧に閉され、その正体の見難たい李太白の、時代と生涯と作品を第一史料によつて緻密に考え描き、盛唐の詩壇に李白のどとき超世の詩人の出た縁由を、歴史的社会的条件・自然的環境・家系・遺伝・嗣承・交友・体験などを科学的に綿密に調査することによつて闡明し、かつ伝存する千有四首の作品を仔細に觀察して、李白の詩体と思想を分析し、その源流と特色をあきらかにされたものである。

更に教授がこの大著をなすに、古今内外の研究文献を博覧し、その上に立つて審ら

かに叔表を升じながら立論されていることは勿論驚異であるが、行文また重厚・精緻・深刻・凱切、滔々数千万言を悉くして、分明に、またリアルに、李太白を描き、論じ、語つてやまない概あるは、天下の偉観だと思ふ。しかも、これによつて一斗百篇の酒仙とのみあやまり伝えられた李太白の地上の人としての悩みがいかに深刻であつたかをつぶさに知りえ、はじめてその真面目を見えたばかりでなく、その詩の文学的価値が客観的に妥当に解明されたことをよりうれしく思ふ者である。

(早大出版部・定価一八〇〇円)

「国文学研究」投稿規定

一、会費年額四百円を納入する者は、誰でも本誌に投稿することができる。

一、投稿論文の採否は当編集委員会に一任されたい。

一、投稿論文は原則として、四百字詰原稿用紙三十枚前後とし、原稿用紙二枚程度の要旨を添えること。

一、投稿論文には住所、卒業年度、職業を銘記すること。

* 誌代(毎号平均百七十円)を納入する者は誌友として「国文学研究」を送付する。